

多様な人材を動かし、成果を生み出す 女子大が育む次世代型リーダーシップ

共立女子大学／ビジネス学部（仮称）

Kyoritsu Women's University

未だ低水準にとどまる 日本の女性管理職の割合

女性の就業率の上昇は近年著しく、2018年の総務省「労働力調査」では、生産年齢人口（15～64歳）における女性の就業率が約70%と過去最高を更新。労働力人口が減少し続ける日本にとって、女性の就業率の引き上げは重要な課題のひとつだ。待機児童解消に取り組み自治体、出産・育児からの仕事復帰やキャリア継続を支援する企業も増え、女性が働きやすい環境づくりは社会全体で進められつつある。

しかしながら、日本の「女性管理職」の割合は、世界と比較しても依然低い状況だ。内閣府男女共同参画局のデータによると、女性の管理職が少ないのは、「仕事と育児の両

立が困難」であること以上に、「現時点で、必要な知識や経験、判断力等を有する女性が少ない」ことを約半数の人が理由として挙げている。日本における女性のリーダーシップ育成は急務であると言える。

こうした社会情勢を背景に、リーダーシップを備えた女性を育むべく、共立女子大学に「ビジネス学部（仮称・2020年4月開設予定 設置認可申請中）」が間もなく誕生する。

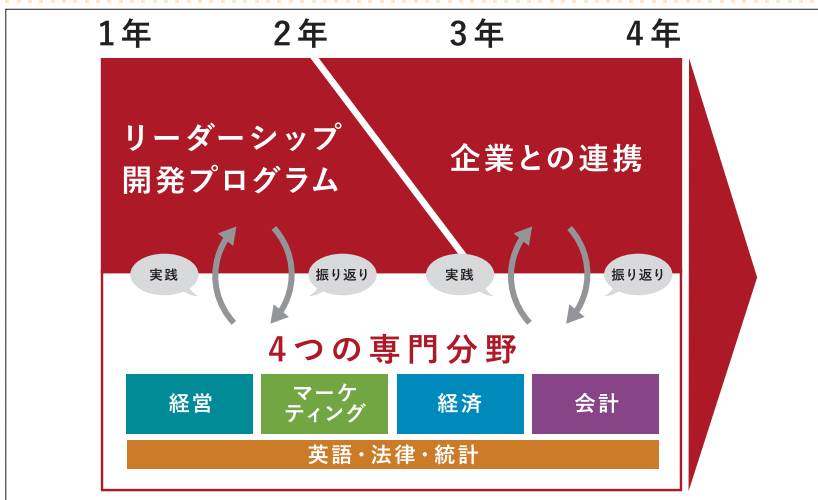
130年以上掲げ続ける 「女性の自立と自活」の精神

共立女子大学は、近代女性の自立と社会的地位の向上をめざし、専門的知識と高度な技能を修得する職業学校として1886（明治19）年に創立。建学の精神「女性の自立

と自活」のもと、時代の変化とともに進化しながら、たくましく社会を生き抜く職業人としての女性を数多く輩出し続けている。

創立130周年を機に、他者と協働し、リーダーシップを発揮する「協働とリーダーシップ」をビジョンのひとつに掲げ、教育改革にも取り組む。2017年からはリーダーシップを養成する実践的なプログラムも開講。飲料メーカーやセレクトショップなどの企業と連携し、企業が抱える課題に対して学生がビジネスプランを提案する演習科目だ。このプログラムでは、プランの完成度以上に、プロセスを重視。チームで成果目標を共有し（目標共有）、自ら主体的に動き（率先垂範）、メンバー同士が助け合いチームとしての力を最大化する（同僚支援）。この3要素をメンバ

● ビジネス学部（仮称）の学びのしくみ



【主要4分野の専門知識】・【リーダーシップ開発プログラム(LDP)】・【立地を生かした企業との連携と実践】を3つの柱とし、4年間を通じて知識の修得と実践、振り返りを何度も繰り返していく。主要4分野の知識は統合化し、「知っている」から「使える」知識に転換。成果目標を共有し、自ら主体的に動き、周囲や他者を支援する「リーダーシップ」を実践的に磨く。

社会が大きく変化する未来を見据え、共立女子大学は2020年4月に「ビジネス学部（仮称）」を開設（設置認可申請中）。独自のプログラムで、これからの「リーダーシップ」を養成する。※名称・内容等は、予定であり変更があり得ます。

取材・文／草薙敦子

ビジネスの知識を武器に 強さと行動力を備えた女性を育てる



ビジネス学部（仮称）
就任予定教員
大川 洋史 准教授

ビジネス学部（仮称）が育てたいと考えるのは、はっきりモノを言い、どんどん前に出ることのできる学生です。女性の社会進出とともに、そんな強さと行動力を持った女性が今後一層求められていきます。ビジネスにおいて、どんな場面や相手に対しても物怖じせず発言するためには、リーダーシップはもちろん、専門領域に対する教養も不可欠となります。『リーダーシップ開発プログラム』と並行して、ビジネスの主要4分野を学ぶのはそのためです。知識を得るだけでなく、活かし、使えるようにすることで自信をより深め、自分の武器にすることができるのです。その中で好きな分野や自分に向いているものを見つければ、それが大きな強みにもなります。興味関心に基づいて自分から積極的に学び行動することは、大学で学ぶひとつの理想の形だと思えます。

女子大でリーダーシップ教育に取り組むことで、個性を發揮しやすい、というメリットもあります。男女混成のチームで行くと、男性に対して気後れしてしまう、という女性も中には出てきてしまうものです。そうした学生も自然体で自分の個性を出し、成長していくことのできる環境が女子大にはあります。いまは「まだ目標が見つからない」という高校生でも、ビジネス学部（仮称）の学びやプログラムが、これまで気づかなかった自分の一面を見つけるきっかけになると信じています。



（上）「販売額を200億円にする提案を」という企業からの課題に対し、学生たちはグループでビジネスプランを策定。クライアント企業を前に、事業計画をプレゼンテーションする。（左）グループワークでは、授業ごとに行動目標を設定。毎回振り返りを行い、徐々にチーム力を高めていく。

ビジネス学部（仮称）が育む 次世代型リーダーシップとは

「全員が発揮し、成果を挙げることで、このプログラムのめざすところだ。」

このリーダーシップ教育を核に、新しく開設するのが「ビジネス学部（仮称）」だ。学生はビジネスに必要なとなる「経営」「マーケティング」「経済」「会計」の主要4分野を学修し、『リーダーシップ開発プログラム（LDP）』をベースとした体験型授業で、修得した知識を「使える」状態にして

いく。

「同時並行的に学ぶ経営・経済の基礎知識をベースに、ビジネスの課題をグループワークで解決していく授業を通して、人間力をビジネス環境で活かしていく能力を育みます。都心の地の利も活かし、現実社会の『学問』『キャリア』がつながる学びを展開することで、自分に合ったキャリアを考えるきっかけとしていきます」と、植田学部長（予定）は語る。

リーダーシップを「リーダーがグループをマネジメントする時に発揮するもの」と考える人は多いだろう。しかし、ビジネス学部（仮称）が考えるリーダーシップは、そうしたチームの先頭に立つ人だけに求められるも

のではない。多様な人材を動かす現代のビジネスには、リーダーシップにも多様性が必要だ。女性の視点や個性を活かしながら、チームの成果を生み出すために、目標を共有し、率先して動き、人を巻き込むことで、チームにポジティブな影響を与えていく。そんな「次世代型リーダーシップ」を備えた女性が、これからのビジネス、そして社会を支えていくことだろう。



ビジネス学部（仮称）
学部長（予定）
植田 和男 教授
マサチューセッツ工科大学博士
課程修了（Ph.D.）。東京大学教授を経て共立女子大学新学部
設置準備室長。経済学博士。

Information

共立女子大学



1886年、女性に専門的知識と高度な技能を修得させ、女性の自立と自活の力を育成することを目的として創立。以来、時代の要請に応え、幅広く深い教養および総合的な判断力を培った、社会に広く貢献する自立した女性を輩出し続ける。家政学部・文芸学部・国際学部・看護学部を擁し、2020年4月にはビジネス学部（仮称）を開設予定（設置認可申請中）。※新学部の名称・内容などは予定につき、変更する場合があります。

●DATA

東京都千代田区一ツ橋2-2-1
TEL 03-3237-1354
URL <https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>